

# 桜島地区



噴火により埋没した鳥居

鹿児島県大島郡  
さくらじま  
桜島地区

## 現在も活発に活動が続ける、鹿児島島のシンボル桜島

桜島は鹿児島市街地の東方わずか約4km先に位置する活火山である。

桜島は、整った山容を静かな鹿児島（錦江）湾に浮かべ、鹿児島（錦江）湾に面する各地域から眺められる秀麗な姿は、全国に例を見ない景観でもあり、鹿児島市民だけでなく、県民の心のよりどころともなっている。

しかも、今なお活発に活動している活火山でもあり、古来何回となく繰り返された火山活動の結果、時代の異なる流出した溶岩が、世界有数の溶岩原を形成している。

溶岩原における植物が芽生え、茂っていくまでの遷移状況、動物の生息状況など、生物の生態系に関する貴重な研究の場所と

もなっている。

桜島誕生のはじまりは、今から約26,000年前とされており、火山としては比較的新しいものとされている。

噴火活動による火山灰の中で約12,800年前の噴火による火山灰は、考古学上の時期を決定づけることのできる貴重な地層として、「サツマ火山灰」「サツマ層」と呼ばれている。

桜島の大きさは、周囲52km、面積80km<sup>2</sup>、北岳の高さ1,117mで、北岳と南岳の二つの火山からなる複合火山である。

昭和29年（1954）、鹿児島県の記念物（名勝）に指定された。



●所在地／鹿児島市 ●交通／鹿児島港～桜島港（桜島フェリー）

## 方崎(穂崎)の庚申塔 ▶ほうざき(ほざき)のこうしんとう

市指定/有形民俗文化財/民俗資料

[MAP O-28]

### 寛文五年銘の県内で最も大きな庚申塔



この庚申塔は寛文5年(1665)に建てられ、中央に「奉庚申供養 施主五十二人」右に「寛文五年」左に「己二月十日」の文字が刻まれている。

この塔の高さは2.2m、周囲3.2mもあり

県内では最も大きいものとされている。

初めは海岸に建てられていたものを昭和57年(1982)3月に現在地に移したものである。

平成17年(2005)、鹿児島市の有形民俗文化財(民俗資料)に指定された。



●所在地/鹿児島市桜島横山町 ●交通/桜島フェリーターミナル 市営 方崎バス停 ●駐車場/無

## 沖小島砲台跡 ▶おこがじまほうだいあと

市指定/記念物/史跡

[MAP P-30]

### 沖小島と燃崎の間には機械水雷が敷設された



文久2年(1862)8月、生麦事件がおきた。文久3年(1863)6月イギリス艦隊は、軍艦7隻で鹿児島湾谷山沖に現れた。イギリスの代理公使ニールや幕府は事件の解決を薩摩藩に求めたが、島津久光はこれに応

じず、7月2日に戦闘が始まった。

最初は、薩摩軍も奮闘したが、イギリス軍の阿姆斯特朗砲の威力はすさまじく、砲台はほとんど壊され、鹿児島の上町一帯は消失し、近代工場を備えた集成館も大きな被害を受けた。このとき桜島には、沖小島砲台の他に横山、鳥島、赤水にも砲台が築かれていた。

平成17年(2005)、鹿児島市の記念物(史跡)に指定された。



●所在地/桜島港湯之持木地区沖 ●交通/定期船無 ●駐車場/無

## 横山(袴腰)砲台跡 ▶よこやま(はかまごし)ほうだいあと

記念物／史跡

【MAP O-28】

島津家27代当主斉興は、海防体制を強化するため各地に砲台を築造させた。横山(袴腰)砲台もその1つで、嘉永3年(1850)頃に築かれた。

文久3年(1863)の薩英戦争時には4門の大砲が配備され、戦闘が始まった時、砲台のすぐ前に停泊していた英艦バーシューズに砲撃を浴びせている。英艦バーシューズは驚き、錨を切り捨てて離脱した。

なお、錨は戦闘終了後に引き上げられ、

薩摩藩とイギリスが和解した後、イギリスに返還された。



●所在地／鹿児島市桜島横山町 ●交通／桜島港フェリーターミナル ●駐車場／無

## 五社大明神(月読神社) ▶ごしゃだみしょうじん(つきよみじんじや)

有形文化財／建造物

【MAP O-28】

旧社格は県社。御祭神は、<sup>つきよみのみこと</sup>月読命、<sup>に</sup>邇邇<sup>ひこほ</sup>芸命、<sup>ひこほ</sup>彦火火出見命、<sup>うがやふきあえずのみこと</sup>鵜茅葺不合命、<sup>とよたま</sup>豊玉彦命である。勧請は不詳で、和銅年間(708～715)と伝えられる。その後、島津家18代当主家久が寛永2年(1625)5月に再興したが、天明年間(1781～1789)に洪水の難に遭って寛政10年(1798)9月に旧社地官坂に遷された。

当社には元国幣小社枚聞神社の御宝物と同じ「古大甕」「明けずの箱」などもあったが、大正3年(1914)の大爆発で社殿と共

に溶岩の下に埋没してしまった。一時照国神社に奏安し、大正7年(1918)11月に武集落到に社殿を造営遷座、昭和15年(1940)8月4日に現在地へ遷座した。



●所在地／鹿児島市桜島横山町 ●交通／市営 旬彩館前バス停 ●駐車場／有

## 鳥島砲台跡 ▶からすじまほうだいあと

記念物／史跡

【MAP O-28】

鳥島は、かつて桜島の沖に浮かぶ小島であった。嘉永3年(1850)頃、鳥津家27代当主斉興は、海防体制を強化するためここに砲台を築いた。

文久3年(1863)の薩英戦争時には3門の大砲が配備されており、イギリス艦隊に砲撃をあげせた。特にイギリス艦隊が桜島小池沖から、この鳥島砲台のすぐ横を南下して撤退していったため、この間は双方激しい砲撃戦を交えた。

大正3年(1914)の桜島大爆発で、島の周

りは流れ出した溶岩で埋め尽くされた。海を隔てた1つの島が溶岩で埋もれてしまうというこの現象は、火山史上でも非常に珍しいものである。



●所在地／鹿児島市桜島横山町(鳥島展望所内) ●交通／桜島周遊バス 鳥島展望所バス停 ●駐車場／有

## 長門城跡 ▶ながとじょうあと

記念物／史跡

【MAP O-28】

築城時期は平安末期(1180年頃)の山城で、長田到将によるものである。元和元年(1615)の一国一城令で廃城となったと考えられる。年代によって「長田城」「横山城」「三角城」とも呼ばれたが、一般には「ながたどんの城」と呼ばれ、この「ながた城」が「ながと城」になったものと考えられる。本丸の位置は鹿児島気象台桜島観測所の建っていた位置で薩英戦争後、陸軍所轄地の石碑のあった土塁上と考えられる。元亀2年(1571)肝占・根占・伊東軍が野尻に

攻めて来た際、鳥津家久・鎌田政近などが当城を守ったとされ、鹿児島湾から攻め入る敵に対し戦略上重要な城であったと考えられる。



●所在地／鹿児島市桜島横山町(桜島自然恐竜公園内) ●交通／桜島港フェリーターミナル ●駐車場／有

## 武五輪塔残欠 ▶たけごりんとうざんけつ

記念物／史跡

【MAP P-27】

この五輪塔は、空輪、風輪、地輪が欠けているため年代を知ることが難しい。

火輪の辺縁の厚みが9cmあることと、隅角部がやや高いことが特徴である。水輪、火輪は同一の石材質であり、地輪は別の石材質であるため、別塔の地輪であると思われる。

旧桜島町にある五輪塔の中では最も古いと推定される。



●所在地／鹿児島市桜島武町 ●交通／市営 大久保バス停 ●駐車場／無



## 武貝塚 ▶たけかいづか

市指定／記念物／史跡

【MAP P-27】

### 縄文時代後期の土器の編年に重要な貝塚



武貝塚は昭和18年(1943)に鹿児島県史跡調査委員寺師見国が京都大学の梅原末治らと発掘調査を行っている。その後、昭和19年(1944)、昭和24年(1949)に京都大学文学部考古学教室が、昭和63年(1988)、平成元年(1989)に京都大学防災研究所附

属防災科学資料センターが発掘調査を実施している。

これらの発掘調査の結果、指宿式、市来式、鐘崎式、西平式などの縄文時代後期の土器が出土した。また、縄文人骨や腕輪、耳飾り、石斧、石鏃(矢じり)、漁具などの石器や骨角器、多種多量の貝殻に混じてイルカ、サル、シカなどの獣骨も出土している。

平成17年(2005)、鹿児島市の記念物(史跡)に指定された。



●所在地／鹿児島市桜島武町 ●交通／市営 武登山口バス停 ●駐車場／無

## 六地藏塔残欠 ▶ろくじざうとうざんけつ

記念物／史跡

【MAP P-27】

武の墓地に所在する。6体の地蔵を3つに分けた3連の石塔であるが、現在はそのうちの2連(4体)の地蔵しか残されていない。



●所在地／鹿児島市桜島武町(武墓地内) ●交通／市営 武登山口バス停 ●駐車場／無

## 島津義弘蟄居跡 ▶しまづよしひろちつきよあと

市指定／記念物／史跡

[MAP P-26]

### 屋敷門が義弘蟄居当時の面影をとどめる



島津家17代当主義弘が関ヶ原の戦いの後、慶長6年(1601)4月徳川氏に恭順の気持ちを表すために藤野へ移り、2ヶ月ほど藤崎家に蟄居した。その時の宿所が藤崎家第11代の屋敷である。

切妻型の屋根を持つ屋敷門は古びてはいるが格式ある藤崎家の象徴として、昔のおもかげをとどめている。

平成17年(2005)、鹿児島市の記念物(史跡)に指定された。



●所在地／鹿児島市桜島藤野町 ●交通／市営 藤野バス停 ●駐車場／無

## 藤崎家の大楊梅 ▶ふじさきけのおおやまもも

市指定／記念物／天然記念物(植物)

[MAP P-26]

### 蟄居時に義弘が植えたと言われる



島津家17代当主義弘が関ヶ原の戦いの後、慶長6年(1601)4月徳川氏に恭順の気持ちを表すために藤野へ移り、2ヶ月ほど藤崎家に蟄居した。このとき、義弘は築

山を造り、楊梅を植えたと言われる。樹齢約400年と推定され、現在、目通り3mほどの大楊梅となっている。

平成17年(2005)、鹿児島市の天然記念物(植物)に指定された。



●所在地／鹿児島市桜島藤野町 ●交通／市営 藤野バス停 ●駐車場／無

## 藤野の庚申塔 ▶ふじのこうしんとう

市指定／有形民俗文化財／民俗資料

【MAP P-26】

### この地で庚申講が長い間続いたと推察される



庚申塔の文字碑は寛文3年(1663)、青面金剛像は寛保3年(1743)に建てられたものである。この2基が並んで建てられていることから当時80年以上庚申講が続いて

いたことが推察される。

土地の人々はこの庚申塔を「金咲っどん」「かわさんどん」「かあさんどん」などと呼んでいるが庚申殿がなまった呼び方と思われる。

平成17年(2005)、鹿児島市の有形民俗文化財(民俗資料)に指定された。



●所在地／鹿児島市桜島藤野町 ●交通／市営 藤野バス停 ●駐車場／無

## アコウ群 ▶あこうぐん

記念物／天然記念物(植物)

【MAP P-26】

暖地の海岸に生える常緑高木で、高さは20mにもなる。幹の周りから縄を垂らしたような気根を伸ばし、それが地中に入って新しい幹となる。また幹を傷つけると乳白色の汁を出す。葉は長形で葉柄が長く、1年に2～3回落葉するがすぐまた新芽を出す。イチジクに似た実がなり、花期は4～5月である。

海岸沿道にその巨大な幹や枝を張り、道路を覆って立ち並んでいる姿は壮観で

ある。

アコウの一部は平成22年(2010)、鹿児島市の景観重要樹木になっている。



●所在地／鹿児島市桜島藤野町付近 ●交通／市営 浜平バス停 ●駐車場／無



## 中坊の五輪塔群 ▶ なかんぼうのごりんとくぐん

記念物／史跡

【MAP Q-26】

中坊の五輪塔は、ミカン園の火山灰の中に埋もれ、空輪風輪だけが地上にあったものを、昭和57年(1982)8月発掘し現在地に安置したものである。この中には水輪の中に骨を納める穴を掘ったものもある。

造立は、鎌倉時代前期の建長年間(1249～1256)、鎌倉時代中期の文永年間(1264～1275)、永仁年間(1293～1299)、正安年間(1299～1302)のものとして推定される。

特に鎌倉時代前期の五輪塔は県下でも少なく、たいへん貴重なものとされている。



●所在地／鹿児島市桜島西道町 ●交通／市営 海水浴場バス停 ●駐車場／無

## 逆修五輪塔・宝塔群 ▶ ぎゃくしゅごりんとう・ほうとうぐん

記念物／史跡

【MAP Q-26】

逆修五輪塔2基と宝塔残欠1基がある。昭和4年(1929)頃、地中から発見され、現在地に移された。

宝塔の塔形は基礎と笠が方形で塔身は円筒形、頂上に相輪を置いている。なお塔身と笠の間に首があるのが特徴である。現在宝塔は笠のみ残り、笠以外の部分は五輪塔のものである。



●所在地／鹿児島市桜島西道町 ●交通／市営 桜峰小前バス停 ●駐車場／無

## 鹿児島忠吉の宝塔 ▶ かごしまただよしのほうとう

記念物／史跡

【MAP Q-26】

西道の逆修五輪塔、宝塔群と20m程離れた民家の庭に逆修宝塔がある。

この宝塔は、相輪下部の請花と9輪のうち3段を残して上部を欠損している。塔身の主部の高さが5cmあるので鎌倉末期の造立であろうと推定される。塔身の形の類系から薩摩川内市の薩摩氏、串木野氏の類系と同族の鹿児島氏であろうと考えられる。鹿児島忠吉は川辺氏の末弟で平安末期の人物である。

なお、この宝塔の下から陶器の小皿と素焼皿、中国宋時代の珠光青磁の小皿3枚が出土している。



●所在地／鹿児島市桜島西道町 ●交通／市営 桜峰小前バス停 ●駐車場／無

## 水神 ▶すいじん

記念物／史跡

【MAP Q-26】

舟形光背の石像が3基存在するが、一部欠損・風化している。仁王らしいが、独鈷（もしくは剣）を右手に持ち、左腕に蛇をかませ、頭は河童らしく、風変わりな様相の像である。造立時期など不明だが、海辺近くにあるため海難水難よけの神として信仰されていたと考えられる。



●所在地／鹿児島市桜島西道町 ●交通／市営 西道バス停 ●駐車場／無

## 西道の宝篋印塔 ▶さいどうのほうきょういんとう

記念物／史跡

【MAP Q-26】

宝篋印塔2基（相輪欠損し、五輪塔空風輪が置かれている）、歴代住職の墓（僧塔・印塔）、「南無阿弥陀仏」と刻まれた石塔（高さ90cm、幅40cm）がある。なお、この一帯は寺跡であるといわれている。



●所在地／鹿児島市桜島西道町 ●交通／市営 西道バス停 ●駐車場／無

## 如意輪観音像 ▶よいりんかんのぞう

有形民俗文化財／民俗資料

【MAP Q-26】

西道墓地の2体の像は二臂像（2つの手を持った像）である。桜島地区の貴重な石像であり、墓地の隅に放置されていたものを現在地に安置したものである。西道墓地内にはその他、石塔類もある。



●所在地／鹿児島市桜島西道町(西道墓地敷地内) ●交通／市営 西道バス停 ●駐車場／無

## 笠塔婆 ▶かさとうば

有形民俗文化財／民俗資料

【MAP Q-26】

笠塔婆とは方柱の塔身上に笠石を置いたものである。西道の墓地内にある笠塔婆の造立、その他のことについては今後の調査が待たれるが、由緒ある石塔であると思われる。



●所在地／鹿児島市桜島西道町(西道墓地敷地内) ●交通／市営 西道バス停 ●駐車場／無

## 二俣の五輪塔 ▶ふたまたのごりんとう

記念物／史跡

[MAP Q-26]

昭和59年(1984)二俣橋之尾工事現場から五輪塔、貝塚及び古銭が発見された。工事のため土地が掘り崩されていたが、五輪塔4基分は取り留め、五輪塔の形に整えられた。しかし、その他の残欠があるためそれ以上の数が存在していたと思われる。

五輪塔の出現によって当該地が寺か神社であったことが推察される。また、空輪、火輪の形状、石材質などから鎌倉中期のものと推定されるが、すべてが同時期のものではなく長期間

にわたって建てられたものと考えられる。

古銭は多種類の中国の宋銭であり、かつてこの地が広く他地域と交易していたことが分かる。



●所在地／鹿児島市桜島松浦町 ●交通／市営 初嶋バス停 ●駐車場／無

## 園山池(タケコケモドキ) ▶そのやまいけ(たけこけもどき)

記念物／天然記念物

[MAP T-27]



園山池は、安永8年(1779)に流出してきた安永溶岩が園山にぶつかり、左右に分かれたあとと再び合流したとき、その麓の凹地にできた

ものである。両方から流れて来た溶岩は接続しているが、下部は海と連なり潮の干満によって池の水面も上下する塩水湖となっている。

園山池のタケコケモドキは、海草の一種の紅藻類でフジマツモ科に属し、北半球ではここだけしか知られていない重要な藻類であったが、今は見られない。



●所在地／鹿児島市高免町 ●交通／市営 西園山バス停 ●駐車場／無

## 白浜の石畳道 ▶しらはまのいしだたみみち

記念物／史跡

[MAP R-26]

昭和40年代(1965～74)までは町内各地域で石畳の生活道路を見ることができたが、自動車が普及するようになると環境も変わり、道路は舗装拡張され、今では、この石畳道が過去の生活を物語る桜島地区唯一の石畳道になってしまった。

今日の道路は、舗装され側溝の付設が普通であるが、当時は路上を生活廃水や雨水が流れて道の中央部は侵食されて低くなり、いたる所に水溜りができて、通行に不便をきたすばかりでなく、衛生的にもよくなかった。

これらの解決策が石畳道であったが、この道にも苔が生えたりして滑りやすく、水汲み運搬、一般歩行にも用心しなくてはならなかった。



●所在地／鹿児島市桜島白浜町 ●交通／市営 奥平バス停 ●駐車場／無

## 無縫塔 ▶むほうとう

記念物／史跡

【MAP R-26】

無縫塔とは台座の上に卵形の塔身を載せた石塔で、卵塔ともいう。主に僧侶の墓として建てられたものである。

白浜丸尾の豊受神社の後ろにある無縫塔は江戸時代のもので「安永九子天、七月二十八日、當寺前住晃玉禮昌大和尚」と刻まれていることから、安永9年(1780)に建てられたも

のであることがわかる。そのほか、元禄12年(1699)、文政2年(1819)のものもある。



●所在地／鹿児島市桜島白浜町 ●交通／市営 西白浜バス停 ●駐車場／無

## 林美美子文学碑 ▶はやしふみこぶんがくひ

記念物／史跡

【MAP R-30】

古里は美美子の母キクの出身地である。美美子は下関で生まれ、家族とともに九州各地を転々とし、広島尾道に住んだこともあった。尾道高等女学校を卒業した後、上京し、女工、女給などをしながら、文学を志し昭和5年(1930)「放浪記」で一躍有名になった。戦後は「浮雲」「晚菊」などのすぐれた作品を発表した。文学碑には美美子が好んで書いた

いう「花のいのちはみじかくて苦しきことの多かりき」の自筆の文が刻まれている。



●所在地／鹿児島市古里町(古里公園内) ●交通／文学碑前バス停 ●駐車場／有

## 特殊羊歯類及び蘚類の自生地 ▶とくしゅしたるいおよびせんるいのじせいち

県指定／記念物／天然記念物(植物)

【MAP Q-29】

風穴から吹き出る一定温度の風により特有な植物が自生する

場所の狭い範囲に分布している。



自生地は、標高約220mのところの文明溶岩の地帯で、1aぐらいの面積である。その場所は、溶岩のすき間から夏はつめたい風、冬はあたたかい風が吹き出するため「湯之の風穴」ともよばれている。湿度が高いので、羊歯や蘚苔類の成育が盛んで、北限と南限の植物が同じ

場所の狭い範囲に分布している。

その主なものをあげると、この土地特有の羊歯植物「サクラジマイノデ」、台湾、中国から世界の熱帯地方に分布する「オオヤグルマシダ」「ヘビゴケ」、本州中部以北の高山や屋久島の高地に見られる「ヌマゴケ」など種子植物約20種、羊歯植物約12種、蘚類約14種、苔類約12種が自生している。

昭和35年(1960)、鹿児島県の天然記念物(植物)に指定された。



●所在地／東桜島持木地区の山の中 ●交通／腹持木川3号えん堤近く ●駐車場／無

## 噴火により埋没した鳥居 ▶ふんかによりまいぼつしたとりい

県指定／記念物／天然記念物(地質鉱物)

[MAP T-28]

### 大正大噴火の記録として後世に残された



噴火により埋没した鳥居とは、大正3年(1914)1月の桜島の大噴火にともなって噴出した溶岩、軽石、火山灰などに厚く地表を覆われて埋没した腹五社神社の鳥居である。

この黒神町付近には、火山灰などが5m

も積もり、鳥居は上部だけを残し、約3m程が埋まっているという。黒神集落では、その後、軽石の台地の上に新しく集落を建設した。当時の東桜島村長であった野添八百蔵氏はこの鳥居と近くの門柱を大噴火の記念物として後世に残すため、その発掘を中止し保存した。

埋没した鳥居は、自然の<sup>もうい</sup>猛威を実証している。

昭和33年(1958)、鹿児島県の天然記念物(地質鉱物)に指定された。



●所在地／鹿児島市黒神町(腹五社神社内) ●交通／市営 黒神中学校前バス停 黒神中学校近く ●駐車場／有

## 噴火により埋没した門柱 ▶ふんかによりまいぼつしたもんちゅう

県指定／記念物／天然記念物(地質鉱物)

[MAP T-28]

### 大正大噴火ですっぽり埋まった門柱



噴火により埋没した門柱とは、鳥居と同じく大正3年(1914)の大爆発によって埋没した、永野氏宅の門柱である。もとの高さは2.5mあったといわれるが、今も続く降灰に悩まされながら、門柱も少しずつ埋

もれつつある。

埋没した門柱は鳥居と共に、火山爆発の<sup>もうい</sup>猛威を如実に実証するものとして貴重である。

昭和33年(1958)、鹿児島県の天然記念物(地質鉱物)に指定された。



●所在地／鹿児島市黒神町 ●交通／市営 黒神中学校前バス停 ●駐車場／無



## シラス台地の三大作物

シラスは、九州南部一帯に地層として分布する細粒の軽石や火山灰である。地質学においてはこのうち特に入戸火砕流による堆積物を指す。

鹿児島県では、県本土全面積の半分以上を覆い、一般になだらかな平坦面を持つ標高50～100メートルの丘陵台地、いわゆる「シラス台地」を形作っている。

自然の状態では20～25%の水分を含み、水分が増えると著しく強度が低下する。シラスからなる急傾斜地は大雨などによってしばしば崩壊し、土石流を引き起こした。

シラス台地は土質が悪く、風害がひどく、水にも恵まれず、加えて水はけが良いために農耕上不毛の土壌とされ、稲作には不向きで粟・麦・蕎麦・サツマイモ・大豆・菜種などが植えられた。中でもサツマイモ・大豆・菜種の面積が最も広く、この三つはシラス台地の三大作物と呼ばれている。

サツマイモは澱粉が豊富で、エネルギー源として適している。また、ビタミンCや植物繊維を多く含み、加熱してもビタミンCが壊れないという特長があるが、タンパク質の割合は低い。鹿児島県はサツマイモの生産量が多く全国の約4割を占めている。その理由として、サツマイモの栽培に適した水はけの良い火山灰を含んだ土地が広がっていること、サツマイモは地上に実を付けないため、台風などの風害に強いことなどがあげられる。



シラス

大豆種子は30%～45%の粗蛋白質と17%～24%の粗脂肪を含み、味噌・醤油・豆腐の原料として、また枝豆として食用に供せられる他、食用油やその他の油脂製品原料として多目的に利用される。また大豆粕も家畜飼料として価値が高い。大豆は早魃、多湿条件下でも強いため、鹿児島県の気候の中で、シラス台地での栽培も可能であった。

大豆種子には、人間の主食にまではなっていないが、植物の中では唯一肉に匹敵するだけのタンパク質を含有する特徴から、日本・ドイツでは「畑の(牛)肉」、アメリカでは「大地の黄金」と呼ばれている。

鹿児島の農業において藩政時代から明治維新後まで一貫した発展経路をたどったのが菜種作である。菜種は丈夫で育てやすく、シラス台地でも栽培された。江戸時代になって、商品作物としても栽培されるようになった。

種子の含油量40%、搾り取った菜種油は食用油、灯火、潤滑油の原料となる。また、菜種の絞り粕は肥料として用いられた。

サツマイモの糖質・大豆のタンパク質・菜種の脂質は、人間に必要な三大栄養素である。薩摩藩においては、全国的大飢饉の時でも餓死者はなかったといわれている。これはサツマイモを中心としたシラス台地の三大作物のおかげであるといえる。



サツマイモ